設楽悠 冷静に快挙

日本新2時間6分11秒

東京マラソン

東京マラソンは25日、東京都庁前から東京駅前までの42・195キロのコースで行われ、男子で設楽悠太（ホンダ）が日本新となる2時間6分11秒をマークし、日本勢最高の2位に入った。従来の記録は高岡寿成が2002年にマークした2時間6分16秒。

＝本記1面に

井上大仁も日本歴代4位となる2時間6分54秒で5位に入り、木滑良（ともにMHPS）が2時間8分8秒で7位となった。8位の宮脇千博（トヨタ自動車）、9位の山本憲二（マツダ）、10位の佐藤悠基（日清食品グループ）を含めた6人が20年東京五輪のマラソン代表選考会「グランドチャンピオンシップ（GC）」の出場権を獲得した。

ディクソン・チュンバ（ケニア）が2時間5分30秒で4大会ぶりに優勝。2連覇を狙ったウィルソン・キプサング（ケニア）は途中棄権した。

女子はベルハネ・ディババ（エチオピア）が2時間19分51秒で制し、日本勢は2時間30分16秒で6位の吉冨博子（メモリード）が最高だった。

車いすの部は男子が山本浩之（福岡県）、女子はマニュエラ・シャー（スイス）が優勝した。

（スタート時曇り、気温6・5度、湿度36％）

井上ら好記録続出

▽男子成績 ①ディクソン・チュンバ（ケニア）2時間5分30秒②設楽悠太（ホンダ）2時間6分11秒＝日本新③キプルト（ケニア）2時間6分33秒④キプケテル（ケニア）2時間6分47秒⑤井上大仁（MHPS）2時間6分54秒⑥リレサ（エチオピア）2時間7分30秒⑦木滑良（MHPS）2時間8分3秒⑧高岡千博（トヨタ自動車）2時間8分45秒⑨山本憲二（マツダ）2時間8分43秒⑩佐藤悠基（日清食品グループ）2時間8分58秒⑪エルアラビ（モロッコ）2時間9分18秒⑫荻野皓平（富士通）2時間9分36秒⑬一色恭志（GMO）2時間9分43秒⑭村沢明伸（日清食品グループ）2時間9分47秒⑮カリウキ（日本薬科大）2時間10分0秒⑯田中飛鳥（福岡陸協）2時間10分13秒⑰山岸宏貴（GMO）2時間10分14秒⑱神野大地（コニカミノルタ）2時間10分18秒⑲鈴木健吾（神奈川大）2時間10分21秒⑳メコネン（エチオピア）2時間10分26秒

▽女子成績 ①ベルハネ・ディババ（エチオピア）2時間19分51秒②アガ（エチオピア）2時間21分19秒③クラッグ（米国）2時間21分42秒④ラミセ（エチオピア）2時間22分7秒⑤キプロプ（ケニア）2時間28分58秒⑥吉冨博子（メモリード）2時間30分16秒⑦中野円花（ノーリツ）2時間31分41秒⑧上杉真穂（スターツ）2時間31分49秒⑨今田麻里絵（岩谷産業）2時間32分0秒⑩張美霞（中国）2時間33分2秒

鈴木、初マラソン健闘

○…初マラソンに挑んだ神奈川大の鈴木健吾は終盤に力尽きて19位だったが、2時間10分21秒と健闘した。積極的にレースを進め、「35キロまで（思ったように）いけたのは収穫。次のマラソンに生かしたい」と納得の様子だった。

昨年の箱根駅伝ではエースが集う2区で区間賞に輝いた。マラソンにも強い意欲を持ち、自身に厳しい練習を課してきた。3月の卒業後は富士通に進む予定で「マラソンに（生活の）全てを注ぐ」と決意を新たにした。

喜べない自己ベスト

○…ゴールの直前、設楽悠の快挙を告げるアナウンスが耳に入った。「思い出すだけで歯がゆい」と井上。日本歴代4位となる2時間6分54秒の好記録をマークしたが、目標だった日本記録更新をライバルに許し、表情を硬くした。

1キロ3分を切るペースで飛ばす先頭集団に食らいついた。31キロ付近で設楽悠が遅れ「勝ったと思った」。だが、並走していたリレサが脱落して単独走となるとペースがガクンと落ちた。「後ろから来ていると分かった。硬くなって、動きが止まった」。38キロすぎにかわされると、追いすがれなかった。

破格ボーナス1億円

○…東京マラソンで2時間6分11秒の日本新記録を出した設楽悠太選手（ホンダ）には、日本実業団陸上連合から1億円のボーナスが贈られる。2020年東京五輪でのメダル獲得に向けた強化策として、同連合は15年にボーナス支給制度を導入した。

設楽悠選手は「1億円、ゲットできて素直にうれしい。豪快に使いたい」と話した。日本オリンピック委員会（JOC）による平昌冬季五輪の金メダリストへの報奨金500万円に比べると、破格の臨時収入といえる。

日本新記録となる2時間6分11秒をマークし、日本勢最高の2位に入った設楽悠太　＝東京都千代田区

独自調整に自信深める

次々と前の選手を捉えた終盤、何度も後ろを振り返った。設楽悠は日本人トップも日本新も確信することなく、井上らの位置を確認した。順位にこだわった男が記録を意識したのは「42キロの看板」。ガッツポーズをつくり、人さし指を立ててゴール。倒れ込んだのは「初めて」という力走だった。

初マラソンだった1年前は前半に飛ばし後半、井上にかわされた。今回は逆だった。30キロすぎでペースが上がった先頭集団から離れ、井上からも遅れた。負けも頭をよぎったが、冷静に自分の走りに徹した。徐々に挽回し、38キロすぎで「最低限」と言う日本人トップに立つと、力を振り絞ってその座を守った。

「30キロ以降は気持ち」と言い切る。練習で走るのも30キロまでで、40キロ走は「必要がない」。代わりにレースを増やし、そこで「（日本のライバルに）勝つことに慣れた」。年が明けてから2度の駅伝を含む4大会に出場。昨年は2月上旬のハーフマラソンから本番までの3週間で「間延びした」からと、今回は2週間前にある唐津10キロロードレースを追加した。

タイムを優先せずに臨み、16年も手つかずだった記録を超えた。「今の練習は間違っていない」と26歳の成長株が自信を深めた3度目のマラソン。喜ぶ様子はほとんど見せない。「（今後も）みなさんが思っている以上のタイムは出せると思う」。淡々とした口ぶりから、強烈な自負がにじみ出た。

設楽悠太（したら・ゆうた）埼玉・武蔵越生高から東洋大に進学し、双子の兄の啓太とともに箱根駅伝で活躍。2度の総合優勝に貢献した。14年に卒業後はホンダに入社。16年リオデジャネイロ五輪男子1万メートル出場。17年9月にハーフマラソンで1時間0分17秒の日本記録樹立。170センチ、48キロ。26歳。埼玉県出身。

日本記録挑戦史

16年ぶり歴史動かす

日本男子で初めて2時間10分を切ったのは1984年ロサンゼルス五輪などに出場した宗茂で、78年に2時間9分5秒6をマークした。双子の弟の宗猛とともに、83年に2時間8分38秒の当時日本最高を出した瀬古利彦と名勝負を繰り広げた。85年には中山竹通が2時間8分15秒に縮め、86年には児玉泰介が北京でのレースで初めて2時間7分台に突入した。

99年に犬伏孝行が2時間6分台の扉を開くと、2000年に藤田敦史が2時間6分51秒、02年に高岡寿成が2時間6分16秒に伸ばした。

ここから日本記録が停滞した一方で、世界は一気に高速化が進んだ。03年にテルガト（ケニア）が2時間4分台に突入し、08年にはゲブレシラシエ（エチオピア）が2時間3分59秒、14年にはキメット（ケニア）が2時間2分57秒を出した。

昨年12月の福岡国際で大迫傑（ナイキ・オレゴンプロジェクト）が2時間7分19秒の好記録を出すなど、日本の男子マラソンに復活の兆しが出ていた。そして今大会、大迫と同じ26歳の設楽悠が3度目の42・195キロで16年ぶりに歴史を動かした。

男子マラソン日本歴代10傑（注）OPはオレゴンプロジェクト

①	2時間6分11秒	設楽　悠太（ホンダ）	2018年2月
②	2時間6分16秒	高岡　寿成（カネボウ）	2002年10月
③	2時間6分51秒	藤田　敦史（富士通）	2000年12月
④	2時間6分54秒	井上　大仁（MHPS）	2018年2月
⑤	2時間6分57秒	犬伏　孝行（大塚製薬）	1999年9月
⑥	2時間7分13秒	佐藤　敦之（中国電力）	2007年12月
⑦	2時間7分19秒	大迫　傑（ナイキOP）	2017年12月
⑧	2時間7分35秒	児玉　泰介（旭化成）	1986年10月
⑨	2時間7分39秒	今井　正人（トヨタ自動車九州）	2015年2月
⑩	2時間7分40秒	谷口　浩美（旭化成）	1988年10月